日本キリスト教会　広島長束教会だより

ミニバラ No.62

〒731-0135　広島市安佐南区長束 3-32-16

TEL/FAX
082-238-3459

2018 年 12 月発行

ともに生きよう、この時代を

神は地を御覧になった。見よ、それは堕落し、すべて肉なる者はこの地で堕落の道を歩んでいた。　（創世記 6 章 12 節）

有名な「ノアの箱舟」についてお話ししましょう。今年の夏、広島県では豪雨災害が起きました。洪水は本当に恐ろしいですね。昔、大洪水を体験した人々にとって、これはまさに世界の終わりのような出来事でした。

2018 年の今、日本は平和でしょうか、何か大きな危機が迫っているような、いないような、先行き不透明な時代だからこそ、何が起こっても生き抜いていけるよう、聖書から危機の時代に生きる指針を受けとってゆきたいと思います。

聖書は、初め神が造られた世界は美しい、完全な世界であったと書いています。しかし、そんな世界は長くは続きませんでした。

人間が世界中にどんどん増えてゆきました。その中には正しい人もいましたが、しかし世界全体はどんどん堕落した世界になっていったのです。神は人間を造られたことを後悔し、心を痛められました。それにしても神様がご自分のなさったことについて後悔するというのはよくよくのことです。その結果、神はすべての人を絶やそうと決心されて大洪水を起こされたのですが、それは神が腹立ちまぎれに見境なくやってしまったということではありません。そうではなくて、これは神様の＜悲しみ＞であり＜痛み＞なのです。神様は嘆き悲しんでおられるのです。

しかし、神の裁きが迫っている恐ろしい時代の中で、なお神様とかろうじてつながっている人がいました。ノアです。ノアは正しく、かつ全き人でした。神と共に歩んだ人でした。ただそのことは、彼が完全無欠な人格者であったということではありません。そんなことは不可能です。けれどもノアには他の人とは違ったことがありました。自分が罪びとであって医者を必要とすること、つまり神様と共に生きる以外、自分には道がないことを知っていたのです。神は、ノアのように神を必要としている人を滅ぼすようなことはなさいません。神は巨大な箱舟を建造するようにノアに命令しました。空が晴れわたって雲一つないとき、人間の目は洪水が起こることなど信じることが出来ません。けれども神様が洪水を起こすと言われるなら、そう信じるのです。私たちも時代を見通す者となりましょう。

ノアの一家と動物たちが箱舟に乗りこんで 7 日の後に洪水が起こりました。世の人々はその時もまだ、食べたり、飲んだり、悪事を重ねたりしていました。神様から人々に警告がなかったのではありません。箱舟が建造されている時も、大切な悔い改めの期間だったはずです。その段階で自分の罪を悔い改め、箱舟に入ろうという人がいたら、神は乗せていたにちがいありません。しかし、そんな人はだれ一人いませんでした。

そうしますと 7 章 16 節で「そこで主は彼のうしろの戸を閉ざされた」と書いてあることが重要になってきます。雨が降りやまず、いっさいのものをさらって行った時、人々はやっと、水のないところで箱舟が建造されたことの意味がわかって、箱舟に殺到したにちがいありません。しかしもう遅すぎました。神が戸を閉ざされた後だったからです。

こうして大洪水が始まり、箱舟は水面に浮き上がりました。この船以外に救いはありません。地上の人々と生きものがみな息絶えていくのをノアはどういう思いで見ていたでしょう。人間の罪の大きさと神の怒りのすさまじさにふれてノアは驚愕し、今度は自分たちも滅ぼされるのではないかと恐れおののいたのではないでしょうか。しかし神を信じる者には滅びから免れる道が用意されています。世界の終わりはたしかに恐ろしいことですが、聖書は人間に恐怖心だけを教えこもうとしているのではありません。今、救いの扉が開かれているこの時に神様に出会うことを考えて下さい。神様のみこころは人間を滅ぼすことよりも、救いだすことの方にあるのですから。

（2018 年 11 月 11 日の礼拝説教より）

牧師　井上　豊